

滋賀衣笠会だより

第1号 滋賀衣笠会

ご挨拶

会長 中谷恵剛

日頃は滋賀衣笠会の活動にご協力をいただき誠に有り難うございませす。

平成21年度より伝統ある滋賀衣笠会の会長を仰せつかつておりま

す。社会情勢が大きく変化し、政治・経済ともに大きなうねりとなって、否応なく我々の仕事や生活に影響が出ています。公共事業予算の継続的な縮減が続きますし、高速道路の無料化、エコカー減税・補助などをはじめ、長期的な戦略のない金の使われ方に??を感じているこの頃です。

会員の皆さんは何らかの形で『建設系』に係りながらおられることと思いますが、必要な社会資本の整備や維持管理など、少子高齢化が進行する社会を見据えてどうあるべきかを、皆がもつと考えるべきで、私たちまちどうなるものでもありませんが、自分たちが関わる分野で出来ることから意識して取り組んでいくことが重要と考えています。職種は種々あれど、なにがしかの形でインフラのデザインや管理に関わっていると思うからです。

ところで、会員相互の交流を図っていくために、先ずは『滋賀衣笠会だより』を発行することになりました。幅広い分野で活躍されている会員諸氏のご紹介や時の情報などをお届けしたいと考えていますので、ご協力いただきまますようよろしくお願いいたします。

インターネットを介して様々な情報が手に入る昨今ではありますが、『対面』で得られる情報をおろそかに出来ませんし、人脈を広げる事も併せて重要なものではないでしょうか。そうした意味で、立命館を軸にして教員の方や学生諸君とともに卒業生相互の交流(平たく言えば卒業年次を超えて顔見知りになること)でしようか)は、社会の一員として仕事・生活をしていく上で、『得』になりこそすれ無駄にはならないと考えているところではあります。

残暑厳しき折ですが、会員の皆様方の益々のご活躍をお祈りします。

近代土木遺産めぐり

56年卒 田中伸明

ちょうど一年前に、某協会の役員をしている関係上、福井、和歌山に続き滋賀県における近代土木遺産を見学するツアーを担当しましたのでごく簡単に紹介いたします。

県下の土木遺産は広く点在するため、4つの河川に係る四種類の施設(洗堰、堰堤、橋梁、隧道)について治水をテーマに案内しました。まず、瀬田川の旧南郷洗堰です。



着工は、明治35年。瀬田川は琵琶湖から流れ出す唯一の川で、古来から土砂が堆積しやすく、大雨ごとにしばしば湖沿岸に洪水をもたらしてきました。このため川底の浚渫が行われましたが、水流調整のため水門を造り人工的に調整した初代の洗堰です。

定を自途として設計。デ・レーケは「治水は地山にあり」を理念としました。



この後、土木遺産ではありませんが、移動ルート上にある大戸川ダム建設予定地において、国交省大戸川ダム工事事務所長の岡山さんから、負の遺産になりつつある本体工用残土を横目にダムの役割について懇切丁寧かつ熱心に講演いただきました。

すると、日も高くなりお昼時となりました。昼食は、信楽焼きの焼き物も販売するお店で近江牛の特製カレーライスを用意いただきました。薄いお肉ですが大きさが魅力であったので、満足していただけたようです。食後の見学は、近くの信楽高原鉄道第一大戸川橋梁です。



裁亡杉巖博士が設計施工管理をし、この成功によりコンクリート橋の長大化への礎が築かれました。

さて、いよいよ最後の訪問地である旧東海道の大沙川隧道です。湖南地域は大井川が多く、交通の障害となっていました。これを克服せんがため開削工法により築造された県下最初の道路トンネルです。当時の外国人技師は、付近のお寺に寝泊りしていたそうです。



以上、あまりにも簡単すぎる説明で不満があるかとは存じますが、是非これを機会に近江の地へ足を運びいただき、明治以降の土木技術に触れながら、来年のNHK大河ドラマ「江」を意識しつつ、古城や城跡などにしえの薫りをかいで下さい。お待ちしております。

大津市の土木技術者として

53年卒 堀井信幸

大津市建設部道路管理課の堀井でございます。

では、まず、大津市の概要を紹介させていただきます。大津市は、本州のほぼ中央に位置し、琵琶湖の西南端にあつて南北に59km、東西29kmと細長く、行政効率のあまり良くない市域形状をしています。

現在の人口は、約33万人を超えており、平成22年4月には、中核市となり県の事務の1900項目が委譲されました。この大津市に私が、勤務して

年目になります。

その間、土木技術職員として、今まで、いろいろな部署で土木関連事業に携わらせていただきました。まず、公共土地地区画整理事業を皮切りに道路建設事業や土地造成事業を経験しました。

さらに、土地地区画整理事業の現地事務所では向事業の許認可取得から、宅地造成事業を担当いたしました。その後、下水道事業部局に異動となり、下水道施設建設事業に携わったというソフト事業に携わることになりました。

さらにその後は、今まで、ハード事業しか経験が無かったところに、開発指導といった許認可事務を扱う部署に配置になり、都市計画法、宅地造成等規制法に係る開発指導行政に携わり開発相談など窓口業務も担当しました。

今年度からは、道路管理部門に配属となり、市道の維持管理等に携わっております。現在、当市が管理する道路は、延長146km、575路線となっており、日々、市道の補修、苦情対応などの業務を行っております。

さて、ここで土木事業に関連する話題のひとつとして、現在、関わっていることについて紹介させていただきます。

昨年、社会資本のストックが一定の基準に達したとされ、これからは維持管理の時代であると言われ、その中で「土木構造物アセットマネジメント」という新しい施策が目ざされ、動き出しています。

近年、橋梁等の老朽化に伴う経年劣化等に関する対策が全国的な課題となっており、日本より早くこうした都市基盤施設の整備が進んだアメリカでは、橋梁の落下事故なども発生しています。

この、橋梁アセットマネジメントは、完成後、数十年を経過している橋梁について、架け替えか、延命工事をを行うかを調査して、橋梁長寿命化計画を策定し、その計画に基づき実施していくというものです。本市においても、現在、900余りの橋梁が現存しており、その中で、橋長15m以上のものが、約150橋あります。

このような市道橋は、今まで計画的な点検・維持管理が十分出来ておらず、作りつばなしの状況でありましたが、これからは、十分な改築経費の確保が出来ない状況の中で、合理的な維持管理を行って構造物の延命措置を講じていく必要がありま

す。本市におきましても、これからの主要な事業であるとし、この事業を積極的に推進していこうとしております。

この事項については、各会員の皆様のアドバイス等をお願いすることもあるかと思っておりますので、その際には、よろしくお願いたします。

最後に、大津市における立命館大学理工学部土木及び建築関係学科の卒業生の状況ですが、現在、同窓生は、3名おり、一同に会す機会は、年1回の歓送迎会位となっておりますが、年1回の歓送迎会位を今迄以上に大切にしていきたいと思っております。

また、滋賀衣笠会への参加も重ねて呼びかけていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

立命館大学建設会会長に川那部隆二様を推薦！！ 立命館大学建設会総会に多くのご参加を！！

立命館大学建設会滋賀県支部であります滋賀衣笠会は、立命館大学建設会の次期会長に、当滋賀衣笠会の川那部隆二様を推薦いたしました。この10月16日の立命館大学建設会総会にて新会長が決まります。滋賀衣笠会の多くの会員の皆様で、10月16日の建設会総会を盛り上げましょう！！
立命館大学建設会総会の参加申し込み締め切りが、9月17日となっておりますので、一人でも多くの皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

昭建でがんばつていきます

平9年卒 黒田徹

私は、立命館大学理工学部土木工学科計画コースを平成九年三月に卒業したわけですが、衣笠キャンパスで授業を受けたのは最初の一年間だけで、大学生活のほとんどはびわこ・くさつキャンパスで過ごすことになりました。それは、私が一回生のときにびわこ・くさつキャンパスが完成し、私は新キャンパスのオープンと共に二回生から通うことになったからです。一般科目は衣笠で学び、理工学部土木工学科としての授業は草津キャンパスで受けたことになりました。現在は経済学部や経営学部なども移ってきていますが、当時は理工学部だけが移転しており、穏やかなキャンパスの空気の中に、理工学部独特の忙しげで活気にあふれる雰囲気を感じていました。

しかし二回生以降に衣笠との交流が無かったかというところというわけではなく、所属していたサークルの本部が衣笠にあったため、サークル活動を通じて、頻りに衣笠キャンパスへも通いましたし、他の学部の人たちとも仲間になれました。また四回生の卒業研究では、藤井教授のもとで、京都大学と共同で行っていた琵琶湖の水質調査にたずさわることができ、大学生活の集大成としてこの上なく大切な、忙しくとも非常に充実した日々を過ごすことができました。

ところで、私は「立命館」という名前がとてモ気に入っています。高校時代に感じたそれはほとんど直感的なものだったのですが、それに加えて滋賀県草津市に理工学部が移転してくるという話を聞いてからは、私の志望校は立命館ひとすじとなりました。何しろ私の出身は滋賀県東市で、自転車で通える距離に憧れの立命館大学が移転してくるとなれば他に選択の余地はありませんでした。しかも奨学金制度も充実しており、実際に入学できた後は、育英会と立命館独自の奨学金とを合わせて四年間の学費は全て借りることができました。勉強はしたいが、母親への負担は最小限にしたいし、大学へ行くからには一生懸命学びたいという私の思いに、最大限に応えて迎えてくれる学校は立命館しか

なかったとも思います。立命館大学はその名の通り、まさに私自身の本分を全うするための場を与えてくれたのだと感じます。

平成九年三月、私は立命館大学を無事に卒業することとなり、同年四月には滋賀県大津市に本社をかまえる株式会社昭建に入社することができました。初めての現場は、大先輩である南部氏が現場代理人を務める国土交通省発注の志賀B、大物高架橋下部工事でした。南部氏からは技術者としての基礎を懇切丁寧に教えてもらい、学生から社会人・技術者へと切り替わるためのスイッチを押ししてもらえたように思います。

入社三年目に着いた土山町公共下水道管渠築造(白川工区)工事では、初めて現場代理人を務めることになり、非常に多くのことを学びました。また、下水道事業団発注の琵琶湖湖南中部浄化センター建設工事その②では、先の工程を自分なりにイメージして自分から積極的に動き発言するよう心掛けることで、段取りのリズムを実感することができ自信にもなりました。

琵琶湖工事事務所発注の三田川分派施設建設工事では監理技術者を担い、大戸川ダム工事事務所発注の大津信楽線2工区迂回路(その1)工事では現場代理人を務めさらに深い部分まで経験することができました。特に大津信楽線では、できる限り上司の助けを借りずに役所対応することを目指し手応えを掴み、加えて初めて電子納品を経験した現場として非常に印象深く記憶に残っています。

平成十七年から平成十九年にかけては、滋賀県発注の琵琶湖流域下水道湖南中部甲西南幹線石部1工区管渠工事の現場代理人を務めました。この現場は低入札で落札した上に、全線にかけて路線変更を余儀なくされ、結果 900、L=30m(CMT工法) + 500m(HP工法)のロングスパン推進に挑戦することになりましたが、多くの協力を得て数々のピンチを切り抜け無事に完工することができました。

続く北勢国道事務所発注の平成16年北勢B、P垂坂道路建設工事では、中部地整における初の元請土木工事に現場代理人として臨むこととなり、国交省工事の過酷さを改めて感じつつも皆と力を合わせて諦めずやり遂げることができました。

また、(株)レッキスホースパーク発注の(仮称)信楽ホースパーク建設工事のうち造成工事は、会社始まって以来の大土工事であり、その施工範囲は 215,000m²、土工量は 1,000,000m³ を超えるというものでした。UVや写真でしか見たことなかった5t級ダンプや4t級BH、Dior、3m³級スクレーパーといった超大型重機が大量に投入され縦横無尽に動き回っている光景は正に別世界といった感じでした。現在、造成工事はほぼ完了し、建築工事が進行中です。

早いもので昭建に入社してから十二年以上が経ちました。今回大学時代のことを思い出しながら感じたことは、全てがうまくリンクしていたのだということです。中学・高校時代からの努力が全て立命館大学へ入るために活かされ、さらに私の住んでいる地に新キャンパスが絶妙のタイミングで誘致され、良い出会いと時間を過ごし、そして今は昭建という素晴らしい会社で働くことができている。この状況を私はとても幸運なことだと感じます。

水草に取り組んでいきます

平15院修 松岡友香

滋賀県東北部流域下水道事務所では、県の湖東・湖北地域の下水処理場施設や管路施設の計画、設計、建設等の事業を行っています。処理場の運転開始から10年近く経過しましたが、新たな問題が発生しており、その取り組みについて紹介させていただきます。

東北部浄化センターで処理した処理水は、彦根城の北にある「彦根旧港湾」に放流しています。彦根旧港湾は、かつては港湾として利用されており、更に昔は彦根城の外堀の一部でした。しかし現在は、船の航行もなく、釣りや沿道を散策するなど利用がされています。この旧港湾では、ここ10年ほどの間に徐々に水草が繁茂するようになり、水草繁茂による景観悪化が問題視されています。現在旧港湾に流入する水は、大部分が下水処理水です。処理場を運

開始する以前は、ほとんど水草は生えていませんでした。毎年2回、港湾管理者や河川管理者とともに水草刈取船による刈り取りを実施しているところでした。



一方で、当事務所では彦根旧港湾の環境変化原因の究明のため、水質等の環境調査と、水草抑制対策の実施に向けた実験等を行っています。これまで、水質や底質、生物に関するさまざまな調査を実施してきました。その結果、処理水を放流するようになって旧港湾の水質は昔よりは大きく改善されたのですが、水がきれいになって透明度が上がったことと、温暖な処理水により旧港湾の水温が上がったため、水草が繁茂するようになったということが概ね明らかになってきました。実際、平成元年頃の旧港湾の写真をみるとスカムのようなものが発生し、水もよどんでおり、水質が良いようにはとても見えません。現在は水草が大量繁殖しているものの、水の透明度は高く、多くの魚が泳ぐ姿が確認できます。旧港湾の環境の変化は、処理水によって環境が悪くなった訳ではなく、ある意味では水が綺麗になったことが水草繁茂のきっかけを作ってしまったのですが、水草そのものが見苦しいために、「処理水を放流し始めてから環境が悪くなった」という印象を与えてしまっています。今の水質・水温等の状態は水草だけを生えないようにすることは困難です。しかし、景観悪化は深刻な問題です。そこで、水草抑制方法の検討と、将来の旧港湾の望ましい姿が

どうあるべきかについて、専門家の先生方と地域住民の代表の方、そして関係行政部局と一緒に議論するため、「彦根旧港湾環境改善懇話会」を設置し活発な議論をしていただいているところです。

懇話会に取り組み一方で、水草抑制方法の検討実験も実施しています。今年実施している実験は、現在繁茂している背丈の高い外来水草を背丈の低い在来水草に転換をはかり、水草が水面を覆うことによる景観悪化問題の解消を図る実験、水草の効果的な刈取方法検討のための刈取方法の比較実験、さらには、水草を食べる魚である「ワタカ」を用いた水草除去実験などを実施しています。

この取り組みの中で感じることは、下水処理水に対する大きな嫌悪感があるということと、そのことが目につきやすい水草の景観問題と絡みつき、より水草の不快感を大きくしてしまっているということです。

水草対策の実験を行っています

彦根旧港湾の水草繁茂問題

彦根旧港湾では近年、春から秋にかけて水草が大量繁殖し、水質が濁ることで環境が悪くなっています。このため、景観悪化と水質悪化を抑制するために、ワタカを食わせる実験を行っています。また、水質の改善を図るため、ワタカを放流する実験も実施しています。

「ワタカ」に水草を食べさせます

ワタカは水草を食べる魚です。彦根旧港湾の水質の改善を図るため、ワタカを食わせる実験を行っています。ワタカは水草を食べることで、水質を改善し、景観を良くします。また、ワタカは水草を食べることで、水質を改善し、景観を良くします。

背丈の低い水草に植えかえます

彦根旧港湾に繁茂しているオオカサガサなどは、背丈が高く、水質を悪くする原因となっています。これを、背丈の低い水草に植えかえることで、水質を改善し、景観を良くします。

滋賀県 東北部流域下水道事務所

この旧港湾の取り組みを積極的に発信していくことで、処理水と旧港湾の環境変化、ひいては下水道事業全般に対する理解を得るきっかけに繋がっていただければと思っています。

会議の資料や懇話会の内容については、当事務所内に掲載していますので、ぜひご覧ください。

総会の報告

事務局 川又英史

事務局より平成22年度衣笠会総会の報告と新役員の紹介をいたします。

さる7月30日に琵琶湖ホテルにて平成22年度衣笠会総会をおこないました。来賓として立命館大学より山田淳先生、尼崎省二先生、山崎正史先生、市木敦之先生と立命館大学建設会大阪支部建立会会長大西博様をお招きし、盛大に執り行うことができました。中谷会長と大西建立会会長は共に山田卒研の卒業生であり、また大西建立会会長は、現在滋賀国道事務所長をされており、懐かしい出合いで懇親を図っていただきました。今後とも他会の方々と交流ができればより滋賀衣笠会が盛り上がるのではと考えます。

また平成22年度の総会にて会員の皆様の御賛同をいただき、今年度より滋賀衣笠会会則の一部を変更し、運営委員の役員数を現在の6名以内より15名以内と大幅に増員しました。その主旨は滋賀衣笠会といえど、びわこ草津キャンパスで学んだ卒業生も多くなり、会員相互の一層の交流を図って行こうとするものです。

今後様々な機会をとおして本会の活動にご協力いただきますよう、よろしく願っています。

次に平成22年度新役員を紹介いたします。

- | | |
|-----|----------------|
| 会長 | 中谷 惠剛 (昭和48年卒) |
| 副会長 | 西村 貞雄 (昭和44年卒) |
| 副会長 | 堀井 信幸 (昭和53年卒) |
| 副会長 | 山岡 和則 (昭和53年卒) |
| 副会長 | 中川伊左雄 (昭和42年卒) |
| 副会長 | 馬場 敏彦 (昭和45年卒) |
| 副会長 | 服部 喜由 (昭和50年卒) |
| 副会長 | 南部 安賢 (昭和53年卒) |
| 副会長 | 石田 良明 (昭和55年卒) |
| 副会長 | 田中 伸明 (昭和56年卒) |
| 副会長 | 小嶋 忠敏 (昭和63年卒) |
| 副会長 | 稲葉 実 (平成6年卒) |
| 副会長 | 松延 宏昭 (平成6年卒) |
| 副会長 | 足立 憲悟 (平成11年卒) |
| 副会長 | 北川 一哉 (平成11年卒) |
| 副会長 | 山田 千尋 (平成11年卒) |
| 副会長 | 松岡 友香 (平成13年卒) |
| 副会長 | 村田 康行 (平成16年卒) |
| 副会長 | 玉木 慎 (平成20年卒) |
| 事務局 | 川又 英史 (平成5年卒) |

以上、平成の卒業生に多く役員として加わっていただき、充実した体制となりました。今年度もよろしくお願いたします。